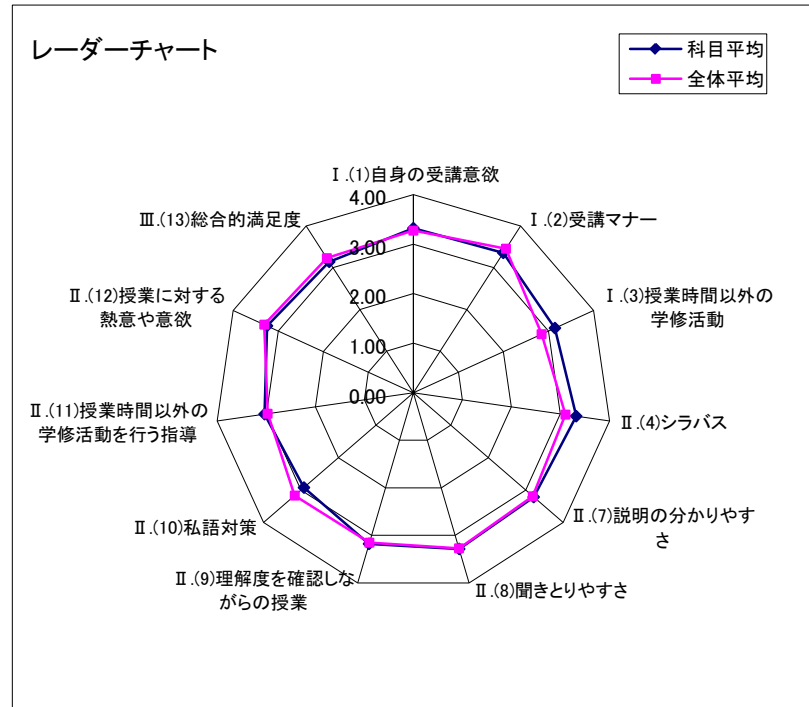
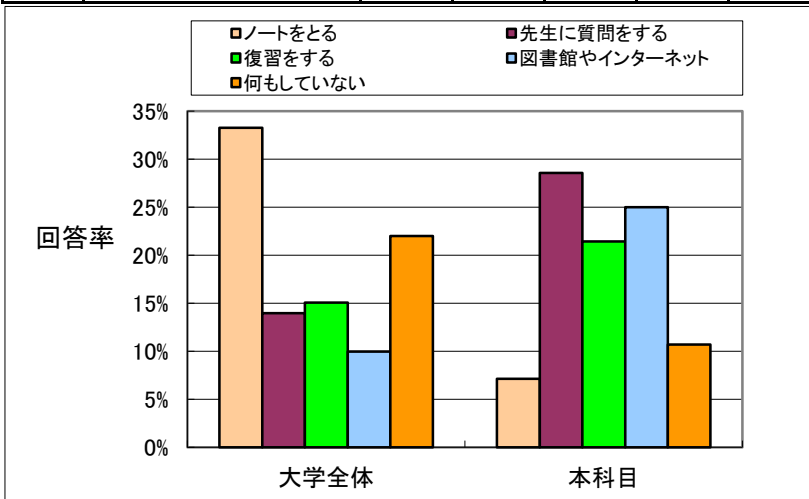


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(14)	授業を理解するための工夫	0.07	0.29	0.21	0.25	0.11



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.32	3.27
	I.(2)	3.36	3.46
	I.(3)	3.14	2.85
講義内容・方法	II.(4)	3.32	3.10
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.21	3.19
	II.(8)	3.29	3.27
	II.(9)	3.18	3.15
	II.(10)	2.92	3.17
	II.(11)	3.04	2.97
	II.(12)	3.25	3.31
	総合評価	III.(13)	3.14

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 I.(1)~(3)	3.27	3.19
講義内容・方法 II.(4)~(12)	3.17	3.17
総合評価 III.(13)	3.14	3.23

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2013年度 前期
時間割番号	4262
科目名	e-ビジネス演習・ウェブシステム
教員名	

①授業計画の達成度について

コンピュータとネットワークを駆使する高度な実習のため、各自の能力の差が如実にあらわれてしまった。つまり難易度が高いという学生と難易度が低いという学生が、ほぼ二分されてしまった。予想外に大人数になったため、トラブルを起こしている学生の対処に時間をとられると、いきおい進度が遅れるという矛盾を毎回抱えながら実施した。一応、当初に計画した範囲は9割くらいはカバーできたが、理解度、習熟度の開きは最後まで大きかった。

②授業の進め方について

毎回、プリントを配布し、新しいプログラム方法を説明した後、各自で実習してもらうという進め方を重ねた。最大の問題は、遅刻してくる学生、前回欠席した学生の対応である。遅刻してくる学生は、その回の新しい技術の説明を受けぬまま実習に入ってしまう、わからなくなる。前回休んだ学生は、そのダメージがさらに大きい。休んだ時は、教材フォルダの中から教材を引き出し、自習した上で次回に臨むように、と指導したが、なかなか徹底できなかった。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

とにかく、個人差がひじょうに影響する科目である。できない学生のケアを、私と1名のTAだけで対応するのは不可能に近く、来年度は、もう少しTAの数を増やしていただけるよう依頼したい。また、一人だけ、飛びぬけて良くできる学生がおり、その学生には易し過ぎる科目であったようである。今後、そのような学生に対しては、個別に高度な自習課題を出すと共に、早くできてしまったら、周りの友達を助けてあげることにより、自分の知識と能力をより確かなものにするよう、指導できればと考える。